

演奏に
役立つ

One Point Lesson

O B O E オーボエ

鈴木純子 すずき・じゅんこ



- ◆出身 東京芸術大学附属音楽高校、東京芸術大学
- ◆所属 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
- ◆趣味 相撲観戦、猫と遊ぶ(言葉を教える)
- ◆血液型 O型
- ◆星座 いて座
- ◆読者にひとこと 上を向いて歩こう!
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

「呼吸」「真ん中のH」「ダブルタンギング」でレベルアップ

こんにちは。4月からおつき合いいたいしているワンポイントレッスンも、今回を含めあと3回となりました。お役に立てているかな? ラスト2回は「リード作り」について解説する予定なので、今回は奏法に関して話し足りなかったことに触れたいと思います。

■「吹くこと」よりも「吸うこと」

楽器を持たずに、まず深呼吸をしてみましょう。立っても座ってもOKですが、胸を張って背筋をピンと伸ばす、いわゆる“よい姿勢”ではなく、猫背にはならないようにしながら、上半身を柔らかく楽にします。

口から息を吸うときに、肺をゴム風船に見立て、ゆっくりふくらませるように深く息を吸います。そして吸った息を口をすぼめて、細く長くはきます。肺の風船はふくらみましたか? 風船は吹き込み口が上で、下のほうへふくらまずイメージです。

何回か繰り返してみましょう。真新しいゴム風船は、最初は固くてふくらませるのが難しいけれど、一度ふくらんでからしばらくの間は、ゴムも柔らかくなっていて、ふくらませるのが容易になりますよね!? その「やわらかくなった風船」をふくらませるイメージで、改めて深く吸って、そして口からはきます。このとき「吸う・はく」を2段階に分けずに、1つの流れの中で自然に行ないます。たくさん吸えるようになればなるほど、吸った空気を外にはき出したくなりませんか?

では、同じように楽器でやってみましょう。風船(肺)を大きくふくらませるように深く息を吸い、はき出したいと思う息をリードに通します。最後まで出しきってみましょう。このとき、決して楽器を「吹こう」とはしないで。

長く音を伸ばそうと思っているわけではなく、驚くほど長く音を鳴らし続けられたのではないのでしょうか。この方法で、しばらくロングトーンの練習をしてみてください。

息を自然に、たくさん吸えるようになり、楽器を「吹こう」と思っていたために入っていた、よけいな力が抜けて、音が柔らかくなるはず。そして、楽譜に書かれている強弱記号や指示記号、自分がやりたいと感じた表現を、大げさなくらいやってみましょう。きっと以前よりもやりやすくなっているはず。さあこれで表現力がワンランクアップ!

■H(シ)の音を磨こう

中音域のH……、いわゆる「真ん中のH」は、指1本だけで押さえる音で、全音域の中で最も抵抗感の少ない音です。真ん中のCもシンプルですが、音色がベーツと明るくなってしまいやすい分、けっこう神経を使って吹いていると思います。が、Hに対してはどうでしょう。少ない息でも音は出るし、少々乱暴に吹いてもCほど音色が荒れることはなく、音程の揺れもあまり目立たないため、意識的に吹いたことがないという人が多いのではないのでしょうか。

そんなみなさんに試してもらいたいのが、「Hの音を磨く」こと。少ない息でも音が出ることに甘んじず、スピードの速い息を入れましょう。かなりしっかりめに息を入れても音程が動かないので、安心して大丈夫。Hの音をよい音で意識的にしっかり吹くことで、G~Cの音が整ってきます。それから、H⇄Cisの吹きにくさも改善されていくはず。

■ダブルタンギングを練習してみよう

どうしてもシングルタンギングでは追いつかないような速いタンギングのパッセージがいつか必ず出てくると思います。シングルタンギングの速さに自信がある人も、ダブルができることで無敵になると思うので、ぜひ習得しましょう。

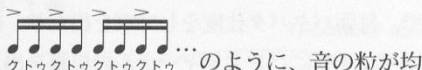
- ①ふだん通りの自然な口の形のまま、声にならない息の音だけで「トゥクトゥク……」と言ってみる。
- ②「トゥクトゥク……」と、「ク」を特に大

きくする。

③「ク」だけを言ったり、「クトゥクトゥクトゥクトゥ」と逆にしたりして、「ク」がはっきり発せられるようにする。


④くちびるを内側に巻いて、同じことをやってみる。

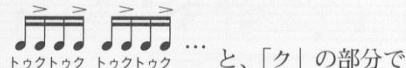
⑤  トゥクトゥク…、クトゥクトゥク…、トゥクトゥクトゥクトゥクトゥク…、

 クトゥクトゥクトゥクトゥク…のように、音の粒が均等に同じタイミングで並ぶようになるまで練習。

⑥リードだけで同様に練習。

⑦楽器を吹きながら、まずは真ん中のHで練習。

完成されたダブルタンギングは  というように粒が均等に聞こえますが、実際は、

 トゥクトゥク トゥクトゥク… と、「ク」の部分で

「トゥ」の部分よりも何倍も速い息を送り出しています。とにかく「ク」を大きくハッキリ発せられるようになることです。

なお、同一の連続する音でなく、音が変わるパッセージでのダブルタンギングがうまくできない場合があります、

①「トゥクトゥクトゥクトゥク…」が同じタイミングでできているか?

②パッセージをスラーで吹いてみて、正確なリズムで音がころぶことなく吹けているかどうか?

以上をチェックしてみてください。これはシングルタンギングの場合でも同じですよ。

[10月号の訂正]

• [譜例1]の最後の2小節の加線がずれていました。正しくは以下の通りです。



• [譜例3]と[譜例4]が入れ替わっていました。